

(参考様式第 2 号)

部奈地区集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき、人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

令和 3 (2021) 年 3 月 1 日

松川町長 宮下 智博

記

1. 会合の対象とした区域

部奈地区

2. 会合の結果を取りまとめた年月日

令和 2 (2020) 年 9 月 29 日

3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

○ 経営体

法人	3 経営体
個人	54 経営体
集落営農 (任意組織)	1 組織

○ 農地の集積面積

集積面積 64ha

区域内の農地面積 69.7ha 集積率 91 %

4. 今後の地域農業の在り方

部奈地区は、西に天竜川、北に小渋川を配し、正面に中央アルプスを望む、風光明媚な土地であり、江戸時代に開かれた井水の恵みにより、水稻栽培が行われてきた、日本の原風景のような地域である。近年では、果樹栽培 (柿・リンゴ) や花き栽培に転換する傾向もあるが、里山全域を自然公園とし、移住希望者や観光客を呼び込もうと、景観を守るための整備が進められている。

高齢化や、後継者不足のため、農地が遊休農地化しているが、地域内での利用を検討する考えが色濃くあり、集落営農組織の立ち上げを検討し、機械化作業等を共同事業でできないか、また、部奈で生産される農産物のブランド化し、学校給食での利用や、ふるさと納税、またインターネット販売、直売所の設置等を検討。昔から品質の良いコメがとれる地域であり、部奈の土壌でどれだけおいしいお米がとれるか、品評会に出品するなどして、おいしいに見える化することも検討。また、部奈での暮らし幸せ宣言を作成し、部奈地区全体の暮らしや、地域の在り方を考えていける活動内容を盛り込んだ組織としたい。

農地をみんなで守る考えを持ち、部奈の農産物のブランド化、土壌の良さを活かした、米、イモ類、果樹、柿、栗等を栽培し、部奈の風景とともに PR していく。部奈に来てくれる人を増やすための魅力づくりをし、奇跡の段丘を生かした景観と、農産物を合わせ、四季を通じた部奈の農地を地域全体で考え、持続可能な地域農業を目指す。